

いにしえの想いにふれる

添田町 文学碑探訪マップ



13 たかちほみねじよ **高千穂峰女 句碑**

【高千穂峰女】(明治28年～昭和62年) 英彦山第31代御座主高千穂有英の御母堂にして俳人。昭和56年11月建立。

権現のえにしに
つどふ岩もみじ



14 まつおぼしょう **松尾芭蕉 句碑**

【松尾芭蕉】この句は芭蕉が奥の細道の旅を終え、門人たちと別れる時に詠んだものです。句碑は芭蕉を慕う地元の門人、柏村蛙庵五調という俳人が明和9年(1772年)に建てたものです。

蛸のふた見に別れ行く
妹ぞ



15 まつおぼしょう **松尾芭蕉句碑**

天保3年(1832年)、芭蕉を慕う地元の門人、柏村蛙庵五調の弟子で五世高瀬颯々庵砂水という方が建てたものです。

枯枝に
鳥のとまりけり 秋の暮

10 まつがいふうたいし **松養風袋子 句碑**

【松養風袋子】(大正2年～昭和63年)元高住神社宮司。20年間に亘って椽の実句会を主催、俳句の振興に努めました。この句碑は椽の実句会結成20周年を記念して建立されました。

椽の実の
落ちつくしたる静かさに

12 すぎたひさじよ **杉田久女 句碑**

【杉田久女】(明治23年～昭和21年)昭和6年日本新名勝俳句で金賞に輝いた「弔して山ほととぎすほしいまま」と同時に応募した作品。こちらは銀賞を受賞しました。

11 こさかけいせん **小坂螢泉 句碑**

【小坂螢泉】(明治42年～平成12年)長崎県出身。医師の傍ら、野見山朱鳥らに師事。

椽の実のつぶて風や
豊前坊

9 まつぐちげつじょう **松口月城 詩碑**

【松口月城】(明治20年～昭和56年)福岡県那珂川町出身。17歳で医術開業試験に合格、医療の傍ら書道、漢詩などを学びました。この“英彦山之詩”は91歳のときに詠んだ句です。

英彦山之詩
巨杉老柏吼天風
路入白雲紅葉中
四面峯巒皆跪伏
此山真是鎮西雄

巨杉老柏 天風に吼ゆ
路は入る白雲 紅葉の中
四面の峰巒 皆跪伏
此の山真に是れ 鎮西の雄



11 こさかけいせん **小坂螢泉 句碑**

霧冷はしのび寄るもの
豊前坊

添田町へのアクセス

JR ご利用の場合

- JR博多駅からJR彦山駅まで 福北ゆたか線、筑豊本線、後藤寺線、日田彦山線経由 約1時間35分
- JR小倉駅からJR彦山駅まで 日田彦山線経由 約1時間30分

車でお越しの場合

- 福岡から 国道201号線経由 約1時間30分
- 小倉から 国道322号線経由 約1時間10分

お問い合わせ
添田町役場 商工観光係
〒824-0691
福岡県田川郡添田町大字添田 2151
TEL0947-82-1236

文学碑 全体マップ



添田町英彦山には多くの俳人や歌人が訪れており、随所に文学碑が残されています。このマップでは、その文学碑の一部をご紹介します。四季折々の大自然を楽しみながら、先人達の想いを感じてください。

- 文学碑リスト
- 1 高浜年尾 句碑
 - 2 廣瀬淡窓 詩碑
 - 3 杉田久女 句碑
 - 4 阪正臣 歌碑
 - 5 青木月斗 句碑
 - 6 児玉南草 句碑
 - 7 高千穂峰女 句碑
 - 8 種田山頭火 句碑
 - 9 松口月城 詩碑
 - 10 松養風袋子 句碑
 - 11 小坂螢泉 句碑
 - 12 杉田久女 句碑
 - 13 高千穂峰女 句碑
 - 14 松尾芭蕉 句碑
 - 15 松尾芭蕉 句碑

1 たかはまとしお
高浜年尾 句碑



【高浜年尾】
(明治30年～昭和54年)
東京出身で高浜虚子の長男。この句は昭和31年、英彦山滞在時の作。

石垣はみな坊址や葛紅葉

2 ひろせたんそう
廣瀬淡窓 詩碑



彦山高き處望み風嵐
木末の楼台暗れて始めて分かる
日暮天壇入り尽くし
香煙散じて教峰の雲と作る

【廣瀬淡窓】
(天明2年～安政3年)
江戸後期の儒学者で漢詩人、教育者。日田の生まれ。この詩は英彦山の絶景と、修験道の崇高な様が描写されています。

3 すぎたひさじよ
杉田久女 句碑



【杉田久女】
(明治23年～昭和21年)
鹿児島県出身で女流俳人三指の一人と言われています。英彦山には何度も訪れており、この句は昭和6年日本新名勝俳句の帝国風景院賞金賞を受け俳壇の話題になりました。

研して
山ほとどぎす
ほしいま

4 ばんまさおみ
阪正臣 歌碑



【阪正臣】
(安政2年～昭和6年)
愛知県生まれの歌人であり書家としても著名。昭和3年4月に来山。

昭和大会主基方御屏風彦山歌
於保幾美乃美以都
おもほゆ遊幾天理天
阿麻曾楚利多都比古乃可織也萬


昭和大嘗會主基方御屏風彦山歌
大君の御後威
おもほゆ雪照りて
あまそそりたつ日子の神山

5 あおきげつと
青木月斗 句碑



【青木月斗】
(明治12年～昭和24年)
大阪出身で正岡子規門下の俳人です。この句碑は花見ヶ岩に建立されています。花見ヶ岩からは、かつて「三千の坊」で栄えた英彦山全体を見渡すことができます。


6 こだまなんそう
児玉南草 句碑



【児玉南草】
(大正11年～平成12年)
大分県出身で俳句雑誌「地平」主宰。句碑は創立25周年、通巻300号記念として建立されました。

音のして次の音待つ冬の山

7 たかちほみねじよ
高千穂峰女 句碑



【高千穂峰女】
(明治28年～昭和62年)
元英彦山神宮宮司高千穂俊磨の夫人です。杉田久女と交友があり、昭和6年日本新名勝俳句にて「山伏の屋敷屋敷や花ふぶき」が入選。

鳥翔つや狐もおぼろなる
嶺の涯

8 たねださんとうか
種田山頭火 句碑



【種田山頭火】
(明治15年～昭和15年)
山口県防府出身で自由律俳句のもっとも著名な俳人の一人です。自由行脚の旅を続けながら俳句を作り続けました。

すべってころんで
山がひっそり

